

## <金標準、FOMC で織り込み済みの利食いに注意・・・>



(出所：オアシス)

消費者物価指数（CPI）や生産者物価指数（PPI）を受け、17日、18日に開催されるFOMCで利下げ実施が織り込まれると、週末には「FRBは利下げ幅を巡り、通常の0.25%か、もしくは0.5%かで決めかねている」とのWSJ（ウォールストリートジャーナル）の記事を機にFOMCで0.5%の利下げ確率が40%まで上昇するなど、大幅な利下げ観測が高まりを示すとNY金は史上最高値を更新し12月限で2614.6ドルまで高値を試している。

そのため既に金市場は、9月のFOMCで0.5%の利下げが実施される事を織り込み済みであり、相場格言で「知ったら仕舞い」の値動きに注意が必要と思われる。また為替市場では、内田日銀審議委員が講演で経済・物価に対して中立的な名目金利の水準（中立金利）について「最低でも1%程度だろう」とタカ派発言を行うなど日米の金融政策の違いを受けた円高が加速している。そのためFOMCを機に金利低下、円高・ドル安の加速に伴い、再度11600円を試す下値追いには注意が必要と思われる。

### <テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが切り上げ、シグナルは下げ渋っている。RCIでは短期が上昇し、長期も下げ止まっている。特に10日移動平均線が下げ渋るなど日足が再度10日移動平均線の位置する11610円に向けた調整の値動きに注意が必要と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,340,000 円(2024 年 9 月 17 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 71,280 円(2024 年 9 月 17 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>